専門家「連続したケアを」

高次脳機能障害の講演会

宮崎市

事故や病気で脳が傷いて起こる高次脳機能障害について、支援やリハビリの専門家が宮崎市内で講演し、家族や医療関係者ら約70人が耳を傾けた。

全国で先駆けて高次脳機能障害の人の支援に乗り出した三重県の「三重モデル」構築に従事した、徳島大大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の白山靖彦教授は、6割の人が復職や復学ができたことを報告した。そのうえで「地域のはざまに落ちている人がたくさんいた。発症から就職後まで連続したケアをすることが大事」と指摘した。

慶応大医学部精神神経科の加藤元一郎教授は、くも膜下出血で意思疎通も困難だった60代の女性に、思い出のビデオを見せ続けたら、検査を受けられるまでに回復した事例を紹介。「自己想起が意識の向上にどれだけつながるかが今後の研究課題だ」と述べた。

（伊藤あずさ）